

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101853		
法人名	社会福祉法人 大樹		
事業所名	グループホームひなた ユニット:1階		
所在地	宮城県仙台市青葉区子平町17-19		
自己評価作成日	令和 4年 1月 25日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 2月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ひなた1階では「やさい」の理念を掲げて、職員それぞれケアを行っています(や→やさしい気持ち さ→支え合う い→いつも笑顔で)。ホールに掲示してある手作りの壁飾りは季節ごとに張り替えており、随時入居者様と職員と一緒に作成しています。季節感を取り入れた掲示物を飾ることで、コロナ禍でこれまで以上に外出が難しくなっている入居者様方に春夏秋冬の季節を感じて頂けるように配慮しています。行事は、全体で行う大掛かりなもの他、各入居者様ごとに希望を募りそれらを反映できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは住宅街の一角にあり、通りに面していて、誰でも気楽に立ち寄ることができる。全居室にトイレが設置され入居者のプライバシーに配慮している。1階は元気な入居者が多く散歩をしたり、夜は軽く晩酌を楽しむ人がある。2階の入居者は、重度化していたが入れ替わりがあり元気な方が増えた。季節感のある壁飾りや想い出の写真に囲まれてゆったりと過ごしている。医療連携が取れており入居者、家族の安心に繋がっている。入居者、職員は、感染症が落ち着いて以前の地域交流や外出ができる生活を待望み過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームひなた)「ユニット名 1階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度ごとに会議の場で話し合いを行い、理念を決定している。ひなた全体としての理念の他に、1階独自の理念も作り各職員で共有している。	年度末に理念について話し合った。事務所に掲示し意識するようにしている。「ここで暮らして幸せだった」と実感できるように、入居者と職員が役割をもって支えあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様との散歩や職員の出・退勤時の挨拶を通して地域の方々との日常的な交流を図っている。また、町内会の総会への参加や運営推進会議等でも交流や情報交換を図っている。しかし、コロナ禍の為、以前積極的に参加していた町内行事や催し物への参加は出来ていない。	犬の散歩をしている人が話しかけてきたり、園児が窓の向こうから手を振って通り過ぎたりする。近所の方が、認知症施設の入居相談に来た。東北福祉大学の実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時に、ひなたの状況を説明することで情報の共有を図っている。また、ひなた敷地内に町内のゴミ捨て場を設置し使用して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を実施。町内会や民生委員・地域包括・警察官といった方々に参加して頂いている。入居者ご家族には参加の声掛けを行っているが、多忙の為出席して頂く事が出来ていない。	書面会議での開催が1回あった。それ以外の会議は、市民センターを借りて対面での会議を行った。健康講座の案内や町内に住む独居高齢者の情報が寄せられている。メンバーの警察官が巡回を増やしてくれた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導への参加。介護保険の更新や区分変更などで、介護保険係とのやり取りを行っている。また、生活保護を受給している入居者様が為、保護課ともやり取りを行っている。	更新手続きや区分変更の申請が郵送で処理できることを教えてもらった。コロナ禍で手袋、マスク、抗原キットの支給があった。週1回抗原検査を実施していた。スキルアップ研修等の案内をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に「高齢者虐待・身体拘束禁止」の資料を掲示している。又、2ヶ月に1回会議の際に高齢者虐待と身体拘束についての内部研修を実施し各職員へ周知している。	2カ月に1回開催している。「ひなた全体会議」の中で資料を配布して身体拘束についてや高齢者虐待について説明している。あえて研修はないが、気付いた時やカンファレンスで話し合い、拘束のないケアに繋げている。「身体拘束の禁止」を事務所に掲示している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内に「高齢者虐待・身体拘束禁止」の資料を掲示している。又、2ヶ月に1回会議の際に高齢者虐待と身体拘束についての内部研修を実施し各職員へ周知している。	職員の精神的負担を防ぐため6ヶ月毎にストレスチェックを行い、必要に応じて産業医に相談している。職員の様子を見て、その都度声をかけ話し易い雰囲気を作り、本人が抱える悩みや不安を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に権利擁護の資料を掲示し各職員への周知を行っている。又、実際に後見人を立てている方が入居されている為、やり取りや仕組みなどを各職員に随時説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明等は専門用語は使用せず、わかりやすい言葉で話すようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見BOXを設置している。又ご家族様来苑時や連絡時に入居者様の状況をお伝えするとともに、ご家族様からの要望を伺うようにしている。コロナ禍においては、体調やご様子などを細目に連絡するように心がけている。	遠方の家族と日頃書面で入居者の様子を伝えていたが家族に十分に伝わらず行き違いがあった。直接電話等で詳細に話しをしたり聞いたり、伝えることの重要性に気付かされた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議実施時に話し合い、各職員からの意見を募っている。会議に参加できない職員の為に、「会議ノート」を設置し会議の場で活用している。	職員会議で勤務時間に関しての相談があり調整をした。職員のトイレ改善、コーヒーマーカ購入に関する要望があった。介護福祉士、ケアマネジャー等の資格取得、資格更新は、法人から援助がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。又、年に2回面談を行い各職員の話の聞く場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修費用を法人が負担し、各職員が希望の研修に参加しやすい様に管理者がシフトの調整を行っている。また、対応する職員に対して初任者研修や実務者研修への参加の声掛けを行い、各職員のステップアップを図っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の内部研修への参加を促し、他事業所の職員と一緒に勉強し交流する機会を設けている。	法人内の研修委員会が企画したスキルアップ研修の「感染症の対応」に参加した。福祉用具レンタル業者や調剤薬局、訪問看護ステーションとの交流がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々のコミュニケーションや関わりの中で、ご本人様が考えていることや悩みを理解出来るように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来苑時や電話連絡の際にご家族様のご意見や意向を伺っている。又、ご家族様が遠慮せずに話す事が出来る様な雰囲気作りを意識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面談時にご家族様やご本人様の意向を伺い、極力それに沿えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションや関わりを通して信頼関係を築き、ご本人様に寄り添ったケアができるように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話連絡時の近況報告を行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中から行きたい場所・思い出の場所を察知し、個別外出やご家族様との外出の計画を立てていく。また、美容院などは希望があればなじみの店に行き、施設に入所してもご本人様らしく生活して頂けるように配慮している。	正月やお盆に帰省して家族と墓参りした。通院帰りに家族と外食をする人もいる。家族が取り次ぎ、最小限の面会にとどめた。2ヵ月毎の出張美容院が来たり、馴染みの美容院に家族と行く入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションやお茶飲み等を通して、各入居者様間の団らんや交流の時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、退所された方への近況や生活の様子等について話ができるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安全面に配慮しながら各々の生活歴や習慣をGH入居後も継続して行って頂けるようにしている。	本人の表情や自宅での生活の延長と考え、思いを汲み取っている。友人と居室で麻雀をしたり、晩酌を楽しむことを継続している。車いす上での姿勢の乱れや表情を見て、休む時間を増やした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様や前任ケアマネージャーと連絡を取り合い情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやiPadの申し送り欄を活用して、職員間で情報の共有を図っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、職員会議でカンファレンスを行っている。ケア計画の更新前にはご家族様に電話連絡やお手紙を送付することで意向や希望を伺っている。	入居者担当が日常の様子をまとめてモニタリングに提供し、介護計画作成者がまとめている。晩酌を計画書に反映している。退院後に車いすをリクライニング対応に変更する等状態に応じて変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやiPadの申し送り欄の活用。日々の様子の記録をしっかりと行う事で、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門外の事については、他職種(医師、看護師、PT、歯科医師、栄養士など)に相談し助言や意見を求め、ケアに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や東北福祉大の学生と連携・交流を図っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に当法人の理事長がかかりつけ医になる為、密な連携が取れている。また、入居される前からのご本人様馴染みの病院へは、ご家族様に協力して頂き受診して頂いている。	内科は協力医療機関が主治医となり職員が同行している。他医療機関の通院同行は家族が行う。入居者の状況を家族に渡し、通院後報告をもらう。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に仙台北訪問看護ステーションの看護師の回診があり、その際に状況報告や助言を頂いている。又、夜間など体調の変化があった場合には随時連絡し助言・指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連絡時に担当の看護師と情報交換を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度かの指針については入居時にご家族様に説明を行っている。主治医の意見やご本人様並びにご家族様の思い・意向を鑑みてターミナルケアができるように努めている。	終末期のあり方は、入居時に重要事項説明書で説明を行っている。重度化した場合は、再確認を行っている。医師、看護師、家族、職員がケア計画書に沿って介護を行っている。「看取りケア確認シート」で入居者の状態を把握して介護を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	オンコールのマニュアルを整備し、それに沿って対応できるように努めている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を整備している。又、年間2回以上の避難訓練を実施して有事に備えている。	年3回夜間想定を含む避難訓練を実施した。夜勤、日勤の役割を確認した。反省に、地域住民がわかるように入居者の状態を色分けした。入居者の避難誘導を近所の人に依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の人格を尊重し、個人の尊厳を大切に声掛けや対応が出来るように努めている。	入居者に失礼のない敬語で話している。入居者の面前での申し送りは名前をイニシャルにするなど配慮し、入居者と同じ空間で話している。共用タブレット、ホワイトボードを活用し情報共有を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時の服選びや行事の内容など、入居者様個人個人の意思を反映・尊重できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で、ご本人様の意思を尊重したケアができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びは入居者様と一緒に話し合いながら行っている。服装についてはその日の気候や気温・季節等を鑑みて職員がアドバイスを行う。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事等で入居者様の食べたい物のリクエストを伺い、それを反映して起案を立てている。又、食事の味見や食器洗い・拭き等各入居者様毎に役割を持ってお手伝いして頂いている。ビールを飲まれる方については、安全や体調面に配慮しながら召し上がって頂いている。	朝食はチルド、昼、夜は配送食材で職員が作っている。新年会は、居酒屋風料理でヤキトリ、刺身の盛り合わせ等で入居者をメインに行った。調理の好きな入居者は野菜切り、もやしの芽取り、後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の好みや嚥下の状況を各職員が把握し、その方に合った食事形態で提供できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。必要に応じて職員が見守りと口腔ケアを実施することで口腔内の衛生保持に努めている。又、定期的に歯科往診を受け、口腔内の清掃や治療等を行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄状況の把握に努め、排泄感覚が無い方に関してはこちらで定期的なトイレ誘導や介助を実施している。パットやリハパンに汚染が見られた際には随時交換や陰部の清拭を実施している。	リハパンを嫌がる入居者の対応を、職員間の話し合いで布パンに交換した。緊張感から失禁が減った。失禁した場合は周囲に配慮し、部屋に誘い対応している。感染症予防の為、清潔に気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩など適度な運動に参加して頂く事で、自然な排便を促せるように配慮している。又、必要に応じて緩下剤を使用することで定期的に排便を促している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	可能な範囲で入居者様の体調や気分に合わせて入浴を実施出来るように努めている。入浴介助についても各入居者様の羞恥心に配慮しながら実施している。	入浴は、週2～3回午後3時から5時ぐらいに入っている。無理強いはいしないで、日数があったら清拭やドライシャンプーで対応をしている。浴室と脱衣所を温めている。同性介助を希望する入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の体調に合わせて、休んで頂ける時間を設けている。又、日中はレクリエーションや体操などへの参加により適度な疲労感が夜間の安眠につながるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝・昼・夕・就寝前それぞれ薬のケースに毎日仕分けしている。各入居者様の服薬内容や薬の副作用については、各職員がお薬手帳や薬のファイルを随時確認して把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションやご家族様との会話を通してご本人様の趣味趣向を把握できるように努めている。又、入居前の生活歴を確認し、GH入居後も継続できるものに関しては安全面や体調に配慮しながら継続出来るように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩にお誘いし職員と一緒に近所の散歩を行っている。又、行事等でドライブも随時行っている。	年間行事計画を立てドライブに行っている。青葉山や紫山、秋保に行っておはぎを買った。重度の入居者は、車椅子用車両で青葉城にドライブした。観賞用植物や衣類の買物など個別の支援もしている。年末年始に家族と墓参りに出かけた入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額お金を持たれている方もいる。ご本人様の希望があれば、散歩や外出時に買い物をして頂く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親戚・友人の方から連絡があった際には、ご本人様に取り次いでお話しして頂いている。又、ご本人様より要望があれば随時ご家族様に連絡を行い直接話して頂いている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節ごとの壁飾りを掲示し、今の季節が分かりやすい様に工夫している。又、各入居者様の作品や写真をホールや廊下などに掲示している。1日3回以上換気を行い、空気の入替えを実施している。	ホーム内は、酸素濃度を計測しながら換気を行っている。ホールや玄関は季節を感じる飾りつけを3~4か月交代でしている。今は、桜を飾っている。入居者は、気に入った場所でテレビを見たり、談話をして寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的に各入居者様の居室に職員が訪室し、温度や湿度の確認を実施し快適に過ごして頂けるように配慮している。各入居者様同士の団らんの時間をやプライベートの時間を大切にしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各入居者様毎に暑多雨で使用していた馴染みのものを持参して頂き居室で使用して頂いている。居室内で危険がない様に、ご本人様の身体状況や安全面に配慮しながら、見守りや対応を行っている。	仏壇やテレビ、スーパーファミコン、机を持ち込んだり、家族の写真等を飾っている。手軽な用具を使って居室やトイレを掃除する方もいる。エアコンやクローゼット、トイレ、洗面台が備え付けてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員それぞれが各入居者様の身体状況を理解し、残存能力を活かしたケアができるように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101853		
法人名	社会福祉法人大樹		
事業所名	グループホームひなた ユニット:2		
所在地	宮城県仙台市青葉区子平町17-19		
自己評価作成日	令和 4年 1月 29日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 2月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①視覚に訴える事が出来る様、掲示物を工夫し、貼りっぱなしにならない様、更新を心掛けております。</p> <p>②理事長が医師であり、利用者様のかかりつけ医という事もあり連携がたやすくなっております。併せて、訪問看護も協力機関であり、事業所・医師・訪問看護の連携が取りやすくなっております。</p> <p>③開所より17年が経過いたしました。町内会の会長・副会長・民生委員・地域包括・八幡交番が毎回運営推進会議にご出席して頂けていることから分かるように地域に根差した事業所となっていると思います。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは住宅街の一角にあり、通りに面していて、誰でも気楽に立ち寄ることができる。全居室にトイレが設置され入居者のプライバシーに配慮している。1階は元気な入居者が多く散歩をしたり、夜は軽く晩酌を楽しむ人がある。2階の入居者は、重度化していたが入れ替わりがあり元気な方が増えた。季節感のある壁飾りや想い出の写真に囲まれてゆったりと過ごしている。医療連携が取れており入居者、家族の安心に繋がっている。入居者、職員は、感染症が落ち着いて以前の地域交流や外出ができる生活を待望み過ごしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームひなた)「ユニット名 2階 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内にも掲示して、意識しながら日々のケアを実践している。日々職員間で、より良いケアを出来るように情報交換を行いケアに対して試行錯誤を行っている。	年度末に理念について話し合った。事務所に掲示し意識するようにしている。「ここで暮らして幸せだった」と実感できるように、入居者と職員が役割をもって支えあっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今は、新型コロナウイルスの流行中の為、地域の方との交流は少ないが「ひなただより」を作成し、地域の回覧板に添付して活動を見て頂いている。また、利用者様との散歩時には地域の方との挨拶を行い日常的に交流を図っている。	犬の散歩をしている人が話しかけてきたり、園児が窓の向こうから手を振って通り過ぎたりする。近所の方が、認知症施設の入居相談に来た。東北福祉大学の実習生を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時に、ひなた内の状態を説明する事で情報の交換を行っている。ひなたの敷地内には、ゴミ置き場を設置し利用して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月にある、運営推進会議に行っている。町内会や民生委員、地域包括、警察官といった方々にも参加して頂き情報交換だけでなく、協力関係を気付けるように関わりを持っている。入居者様のご家族様は、多忙の為、参加出来ていない。	書面会議での開催が1回あった。それ以外の会議は、市民センターを借りて対面での会議を行った。健康講座の案内や町内に住む独居高齢者の情報が寄せられている。メンバーの警察官が巡回を増やしてくれた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導への参加を行っている。介護保険の更新や区分変更を介護保険課の方と連絡を取りながら行っている。生活保護を利用している入居者様もいる為、保護課とも連携を図っている。	更新手続きや区分変更の申請が郵送で処理できることを教えてもらった。コロナ禍で手袋、マスク、抗原キットの支給があった。週1回抗原検査を実施していた。スキルアップ研修等の案内をもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わずにケアを行えている。玄関の施錠は、夜間のみ防犯の為に行っている。施設内には、「高齢者虐待防止・身体拘束禁止」の資料を掲示している。2ヶ月に1階は内部研修で高齢者虐待と身体拘束についての勉強会を行えている。	2カ月に1回開催している。「ひなた全体会議」の中で資料を配布して身体拘束についてや高齢者虐待について説明している。あえて研修はないが、気付いた時やカンファレンスで話し合い、拘束のないケアに繋げている。「身体拘束の禁止」を事務所に掲示している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて、高齢者虐待・身体拘束についても定期的に研修を行っている。また、防止に努めている。施設内には、高齢者虐待・身体拘束の資料も掲示している。	職員の精神的負担を防ぐため6カ月毎にストレスチェックを行い、必要に応じて産業医に相談している。職員の様子を見て、その都度声をかけ話し易い雰囲気を作り、本人が抱える悩みや不安を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で、権利擁護についての資料を作成して研修を行っている。また施設には資料も掲示しており、職員の周知に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書をご家族様と読みあわせを行い、不明点や疑問点を聞きながら契約を行っている。また、電話を頂いた時や行った時に質問があった場合は、随時納得して頂けるように対応出来ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、ケア計画更新のタイミングでご意見・ご要望書を送らせて頂き意見を頂けている。電話でも、意見を頂いた際には、職員間で情報を共有してケア計画等に反映できている。	遠方の家族と日頃書面で入居者の様子を伝えていたが家族に十分に伝わらず行き違いがあった。直接電話等で詳細に話しをしたり聞いたり、伝えることの重要性に気付かされた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で、職員間の情報交換を行い、意見や提案を反映できている。随時、職員間で情報共有を行い必要に応じてケアに反映される事もある。	職員会議で勤務時間に関しての相談があり調整をした。職員のトイレ改善、コーヒーマーカ購入に関する要望があった。介護福祉士、ケアマネジャー等の資格取得、資格更新は、法人から援助がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人に勤務内でコミュニケーションを図り意見に耳を傾け、環境の改善に努めている。また、働きやすい環境になるように情報交換を密に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修費用を法人が負担して外部研修への参加を促している。また、初任者研修や実務者研修への参加の声掛けを行い職員のスキルアップに繋げている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修への参加を促し、他事業所の職員と一緒に勉強を行っている。また、委員会も他事業所の職員と合同で行い、交流する機会が設けられている。	法人内の研修委員会が企画したスキルアップ研修の「感染症の対応」に参加した。福祉用具レンタル業者や調剤薬局、訪問看護ステーションとの交流がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とコミュニケーションを取る中で、考えている事、不安な事を伺い、寄り添いながら関わられるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始する段階で、要望や不安な事を聞き、ケアプランに反映させながら関係作りを行っている。また、電話や面会時には職員から利用者様のご様子をお伝えして話しやすい環境作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状態に合わせた、ケアや福祉用具等をご家族様やご本人、他職種と連携しながら判断して提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動(洗濯物畳みや食器拭き、新聞たたみ)を手伝って頂きながらお互いに支え合う関係を築いている。また、行きたい場所ややりたいことを伺い行事にて要望に応えられる様に努めている。コロナの流行の為、面会や外出が規制されており機会が少なくなっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、電話やお手紙を通して情報交換を行い、一緒にケアを行う関係を築けている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ流行の為、面会に規制がかかっているが馴染みの方が来られた際には、面会して頂き関係が切れない様に支援で来ている。また、ひなたに届いたお手紙をご本人様にお見せ出来ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格等を踏まえた上で、席を考え一人にならない様な支援が出来ている。逆に、一人の方が良い方もいるので状況に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終わった後にも、契約後の様子をお電話で伺い必要に応じてお話を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、気持ちや考えをくみ取り介護計画に反映している。また、困難な場合には日々の表情や職員間で情報交換を行い本人本位になる様に検討できている。	本人の表情や自宅での生活の延長と考え、思いを汲み取っている。友人と居室で麻雀をしたり、晩酌を楽しむことを継続している。車いす上での姿勢の乱れや表情を見て、休む時間を増やした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人にこれまでのお話を伺ったり、ご家族様や関わりのある関係機関の方に経過を伺いながら暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の申し送りやiPadを利用して利用者様の情報の共有を行っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行っている。また、職員会議で入居者カンファレンスも行っている。更新の前には、ご家族様にも意向を伺いケア計画に反映できるように努めている。	入居者担当が日常の様子をまとめてモニタリングに提供し、介護計画作成者がまとめている。晩酌を計画書に反映している。退院後に車いすをリクライニング対応に変更する等状態に応じて変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をiPadに打ち込み記録に努めている。また、申し送りやiPadを活用して情報の共有を図り、実践や介護計画に活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具や病院、栄養士などの他職種とも連携を取り、意見やご指導を受けながらより良いサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や東北福祉大からの実習生の受け入れを通して連携や交流を図っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は、当法人の理事長がかかりつけ医になるが、ご家族様の協力のもと、今まで利用していた病院への通院は可能となっている。継続して、馴染みの病院を利用して頂けている。	内科は協力医療機関が主治医となり職員が同行している。他医療機関の通院同行は家族が行う。入居者の状況を家族に渡し、通院後報告をもらう。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	千葉クリニックや北訪問看護ステーションの回診時や通院時に、利用者様の状態をお伝えし相談をさせて頂きながら助言や指導をして頂けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連絡時には、担当の看護師とこまめな情報交換を行いより良い関係作りに努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より、終末期であると診断されたタイミングからご家族様・主治医・施設職員とで話し合いを行い方針を共有した状態でケアできるようにチームで取り組んでいる。また、本院やご家族の希望をくみ取りながら対応に努めている。	終末期のあり方は、入居時に重要事項説明書で説明を行っている。重度化した場合は、再確認を行っている。医師、看護師、家族、職員がケア計画書に沿って介護を行っている。「看取りケア確認シート」で入居者の状態を把握して介護を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	オンコールマニュアルがあり、マニュアルに沿って対応できるように努めている。急変時や事故があるたびに、会議にて対応方法の検討と再確認を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成している。また、年2回の避難訓練を行い備えている。	年3回夜間想定を含む避難訓練を実施した。夜勤、日勤の役割を確認した。反省に、地域住民がわかるように入居者の状態を色分けした。入居者の避難誘導を近所の人に依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重した声掛けや対応を行い、プライバシーにも配慮したケアが出来るように職員間で意識しながら対応している。	入居者に失礼のない敬語で話している。入居者の面前での申し送りは名前をイニシャルにするなど配慮し、入居者と同じ空間で話している。共用タブレット、ホワイトボードを活用し情報共有を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事で何が食べたいか・レクでは何がしたいかなど選択肢を複数提案したうえで選んで頂くなどして自己決定できるように声掛け出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で利用者様のペースを大切にしながら尊重したケアが出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の服選びは、利用者様と一緒にし本人の希望に合わせて服を着て頂けるように支援している。その時には、季節に合った服を着て頂けるように職員もサポートしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が嫌いな物を事前に把握して、代替食を準備して頂いている。また、好きな物に関しては行事の時に提供できるように企画している。また、食事の準備を利用者様と一緒に進める様に誘導を行っている。	朝食はチルド、昼、夜は配送食材で職員が作っている。新年会は、居酒屋風料理でヤキトリ、刺身の盛り合わせ等で入居者をメインに行った。調理の好きな入居者は野菜切り、もやしの芽取り、後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食餌の栄養バランスは栄養士と連携しながら対応しています。また、利用者様に合った物を提供できるように食事の形態の考慮して提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアへの声掛けを行っている。また、介助が必要な方に関しては職員の介助を行い衛生保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄状況に合わせて、トイレ誘導やパット交換を定期的に行っている。随時、清拭タオルを使用して陰部の清潔の保持を行っている。	リハパンを嫌がる入居者の対応を、職員間の話し合いで布パンに交換した。緊張感から失禁が減った。失禁した場合は周囲に配慮し、部屋に誘い対応している。感染症予防の為、清潔に気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳やヨーグルト、ハチミツを提供しており排便を促している。また、午前午後の体操を通して身体を動かし腸が活動するように努めている。また、1日に必要な水分を計算して、こまめな水分提供を行なっている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴の誘いをした時には、体調を伺いながら入れるかの確認を行い入浴介助を子なっている。また、入浴剤を使用して匂いや雰囲気を楽しんで頂けている。	入浴は、週2～3回午後3時から5時ぐらいに入っている。無理強いはいしないで、日数があったら清拭やドライシャンプーで対応をしている。浴室と脱衣所を温めている。同性介助を希望する入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない様に注意しながら、お昼寝などを頂けている。また、居室の温度や湿度にも配慮してご本人の体調に合わせた環境になる様に努めている。レクにも参加して頂き、適度な疲労感を持って頂きながら生活して頂けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ケースには、薬の名前、効能を明記して職員が分かりやすいようにしている。また、新しい薬が処方された時には、申し送り処方箋を見ながら情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や利用者様からのお話しをもとに、趣味や好きな物の把握に努めている。また、ご家族様からの情報をもとに、カップラーメンや飴、写真持参して頂き提供できている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩に出掛けている。また、桜や紅葉の時期には、ドライブを計画して出掛けている。また、行事を通して行きたい場所を伺い行けるように努めている。	年間行事計画を立てドライブに行っている。青葉山や紫山、秋保に行っておはぎを買った。重度の入居者は、車椅子用車両で青葉城にドライブした。観賞用植物や衣類の買物など個別の支援もしている。年末年始に家族と墓参りに出かけた入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人でお金を管理されている方もおり、希望があれば外出時に買物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より、電話の希望があった時には職員が間に入り直接電話できるように努めている。また、知人やご家族様よりお電話を頂いた時には、必要に応じてお電話に出て頂いている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節の壁飾りを利用者様と一緒に作った物を飾り、季節感が分かるように配慮している。また、気温や湿度、テレビの音、光などが利用者様にとって心地良いものになるように職員がエアコンやカーテン等を利用して調節している。常時、窓を小さく開けて換気を行っている。	ホーム内は、酸素濃度を計測しながら換気を行っている。ホールや玄関は季節を感じる飾りつけを3~4か月交代でしている。今は、桜を飾っている。入居者は、気に入った場所でテレビを見たり、談話をして寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、入口近くに小さな団欒のスペースがあり食後などに利用して頂いている。また、中の良い方同士の席を近くして気の合った方と一緒に過ごせる環境作りを行っている。随時、席替えを行っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談したうえで、利用者様の使っていた物や趣味の物を持って来て頂いて、居室には使い慣れた物を置いて頂いている。少しでも安心して頂けるように環境作りを行っている。	仏壇やテレビ、スーパーファミコン、机を持ち込んだり、家族の写真等を飾っている。手軽な用具を使って居室やトイレを掃除する方もいる。エアコンやクローゼット、トイレ、洗面台が備え付けてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員一人一人が入居者様の状態を把握したうえで、歩行や更衣、入浴など出来る範囲の事はして頂くように声掛けを行い、出来ない部分をサポート出来ている。		